

第3学年 社会科学学習指導案（歴史的分野）

3年4組 男子22名 女子18名 計40名

指導者 清水 暁子

【授業】13:30～14:20 会場 3年4組 （4階）

【協議会】14:30～15:20 会場 第一研修室（1階）

1 単元／題材名 現代の日本と世界 — 3年間の歴史学習を振り返って —

2 単元／題材について

（1）単元／題材設定の趣旨

①学習指導要領における位置付け

本単元は、平成29年告示の中学校学習指導要領の歴史的分野の大項目「C 近現代の日本と世界」、中項目「(2) 現代の日本と世界」にあたる。「第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたこと」や「我が国の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたこと」を理解させる。また、歴史的分野の最後の単元であることから、「これまでの学習を踏まえ、歴史と私たちとのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について、課題意識をもって多面的・多角的に考察、構想し、表現すること」等を身に付けることをねらいとする。

②本時について

本時は、3年間の歴史学習の振り返りという位置付けで行う。第二次世界大戦後の日本では、GHQの占領下で、戦前の軍国主義を排除し、民主主義の国家を目指した諸改革が行われ、現代に至る社会のしくみが構築された。本時では、「私たちは歴史から何を学ぶのだろうか。」という単元を通じた問いのもと、「現代の私たちからみて、最も理想的な政治のしくみはどれだろうか。」という学習課題で追究活動を行う。とりわけ近代以降の歴史で、一部の権力者による政治が戦争に突き進む動力となり、人類に多大な代償を払わせたことを学んだ生徒にとって、社会を構成するより多くの人が政治に参画するしくみが理想的であると考えられるであろう。実際に、続く公民的分野でも、過去の反省から、民主主義の実現を前提とした社会のしくみを学習していく展開となっている。しかし、ドイツのヒトラーは、当時世界一民主的であるとされたヴァイマル憲法のもと、国民による選挙で合法的に政権を獲得した。民主主義が独裁者を生み出したのである。また、近世の日本においては、徳川政権による徹底した身分制社会のもと、約260年に及ぶ戦乱のない時代が築かれた。一部の権力者による政治で社会に安定がもたらされた例と言える。現代では当たり前の、多くの人が政治に携わるしくみは、本当に正しく欠点のないものなのか、歴史から学び、現代につなぐ歴史学習の在り方を提案したい。

（2）生徒の実態

生徒はこれまで、歴史的分野において、第1学年では「古代ギリシャやローマ市民にとって、最も理想的な政治のしくみといえるのはどれだろうか。」といった学習課題について、討論を通じて追究活動を行ってきた。古代ギリシャの哲学者アリストテレス『政治学』を参考に、王や皇帝が一人で行う政治と、貴族などの少数が行う政治、多くの市民が行う政治の、どれが当時の人々にとってよい政治と言えるのかを、歴史的事象を踏まえて話し合った。その際、ある学級では半数以上が王や皇帝が一人で行う政治が最も理想的であると答えた。ローマの五賢帝による平和な治世を根拠にした生徒が多く、歴史的事象の理解が浸透していた成果と考える。また、第2学年では「信長・秀吉・家康のうち、最も近世への変化に影響を与えた武将は誰だろうか。」という学習課題で、3人の武将が行った政策が、「自力救済の禁止、身分間移動の統制、朝廷・寺社・武家の統制」の特徴をもつ近

世という時代への変化に大きな影響を与えたことを理解している。第3学年では「なぜ、日本は15年もの間、戦争をやめられなかったのだろうか。」という学習課題で、沖縄戦や広島・長崎の原子爆弾投下による悲劇を経験するまで戦争をやめることができなかつた原因について、政治・経済・外交などの側面や様々な立場から追究活動を行った。

このように、「なぜ」や「どちらが」といった問いで概念的説明的知識や価値的知識の形成を促す一方で、これまでの歴史学習全体を振り返って考察するような活動は行っていない。本時では、歴史的分野の振り返りにとどまらず、現在や未来の在り方について考察し、公民的分野の学習に向けた課題意識につながるものとした。

(3) 指導の構え

本校の研究主題である「主体性の高まりを目指す課題学習」と関連し、生徒が進んで追究したくなるような学習課題を設定した。

①「深い学び」を実現する単元構成

地理的分野においては、最後の単元として「地域の在り方」がある。第1学年から第2学年までの地理的分野の学習を振り返って、持続可能な地域の在り方について考察するものとなっているが、歴史的分野においては学習指導要領上、3年間の学習を振り返るような単元は個別に設定されていない。そこで、本時では、現代社会の理念やしぐみを理解し、公民的分野での課題意識につなげるために、3年間の歴史学習を振り返ってダイナミックに歴史を捉え、歴史から「今」を学ぶこのとこのきる単元構成とした。

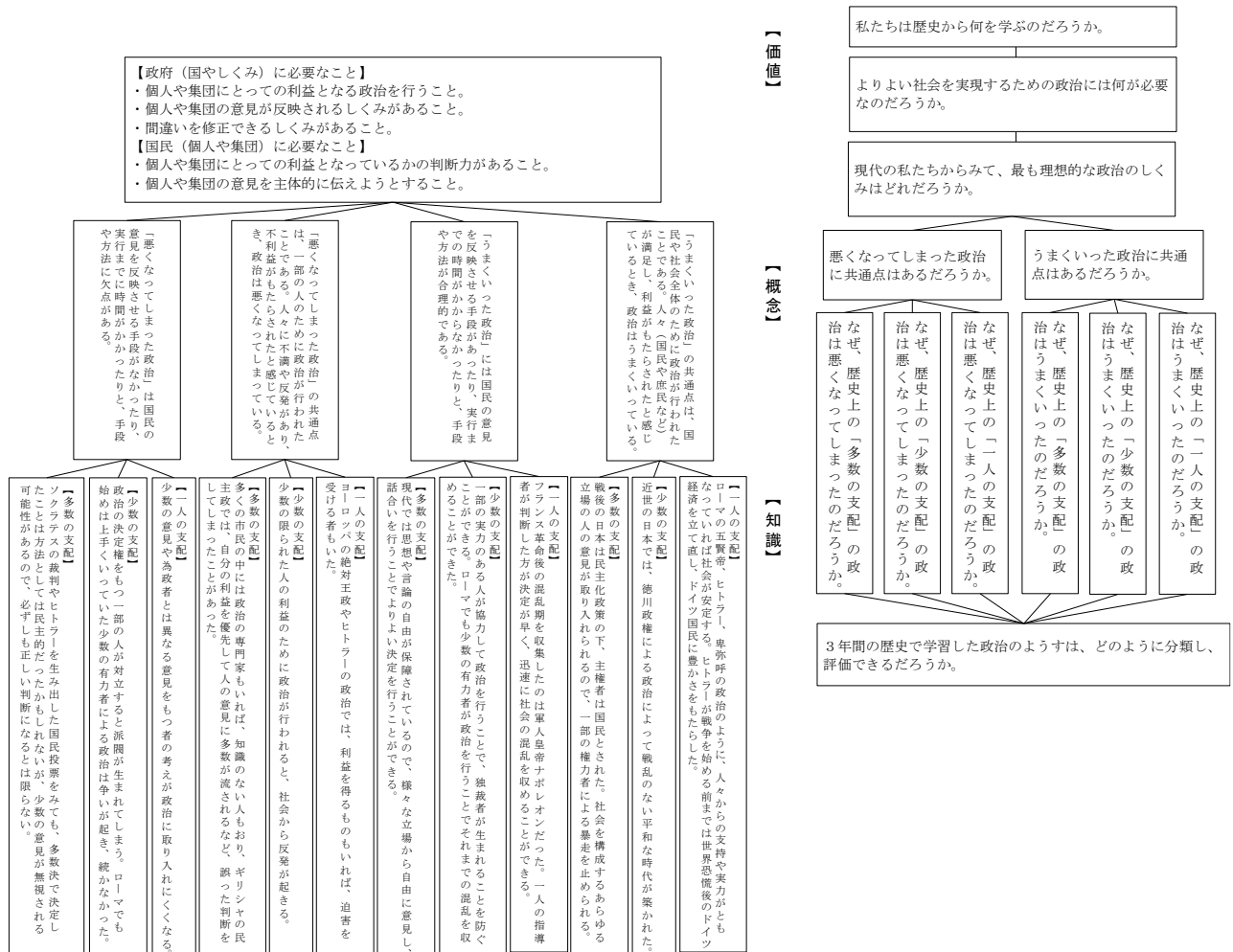
②「見方・考え方」を働かせる「問い」

本時では「現代の私たちからみて、最も理想的な政治のしぐみはどれだろうか。」という学習課題を追究する上で、これまで学習した歴史的事象を根拠に、時代背景や現代社会との共通点や相違点に着目して考察できるように、歴史的な見方・考え方を働かせる問いを提示していく。

3 「見方・考え方」を働かせ、「深い学び」を実現する授業づくり

本単元で「深い学び」が実現している状態を、次の図に示した。

◆「知識の構造図と発問の構造図」(本時に関連する部分のみ)



「社会的見方・考え方の成長過程図(知識の構造図)」



「発問の構造図」

4 単元の目標

- 冷戦、我が国の民主化と再建の過程、国際社会への復帰などを基に、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解することができる。
- 高度経済成長、国際社会との関わり、冷戦の終結などを基に、我が国の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解することができる。

[知識及び技能]

- 諸改革の展開と国際社会の変化、政治の展開と国民生活の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、現代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現することができる。
- 現代の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現することができる。
- これまでの学習を踏まえ、歴史と私たちとのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について、課題意識をもって多面的・多角的に考察、構想し、表現することができる。

[思考力、判断力、表現力等]

- これまでの学習を踏まえ、歴史から学び、よりよい社会を実現するための政治には何が必要なのかを考察することを通して、現代社会の課題に気づき、解決に向けて主体的に追究することができる。

[学びに向かう力、人間性等]

5 全体計画（全4時間） ※本時に関わる部分のみ

単元を通した課題「私たちは歴史から何を学ぶのだろうか。」

第1次 3年間の歴史で学習した政治のようすは、どのように分類し、評価できるだろうか。…2時間

第2次 現代の私たちからみて、最も理想的な政治のしくみはどれだろうか。…2時間

(本時2/2)

過程	教師による発問・指示 <u>学習課題</u>	期待される生徒の反応や活動 (獲得される知識・概念)
第1次	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3年間の歴史の学習を通して、印象に残っていることはありますか。また、どのような学びを得ましたか。 ・他にどのような政治が印象に残っていますか。 ・歴史の授業では、さまざまな時代に、さまざまな政治があることを学習してきましたが、約2300年前、世の中にある政治のしくみを分類し、考察した学者がすでにいました。誰でしょう。 ・ <u>3年間の歴史で学習した政治のようすは、どのように分類し、評価できるだろうか。</u> ・ 皆さんが「うまくいった」「悪くなってしまった」と判断する基準は何だろうか。共通点や異なる点はあるだろうか。 ・ 一人の支配、少数の支配、多数の支配の「うまくいった政治」に共通点はあるだろうか。 ・ 一人の支配、少数の支配、多数の支配の「悪くなってしまった政治」に共通点はあるだろうか。 ・ 一人の支配、少数の支配、多数の支配は、歴史上、移り変わったことはあるだろうか。あるとすれば、どのような時に変化するのだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヒトラーや日本の軍国主義の政治。二度の世界大戦を経験してなお、現代でも同じようなことが繰り返されている。 ・ 古代ギリシャの哲学者アリストテレス。 <p>(省略…ワークシートに記入)</p> <p>視点①「誰のための政治か」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「うまくいった政治」の共通点は、国民や社会全体のために政治が行われたことである。人々(国民や庶民など)が満足し、利益がもたらされたと感じているとき、政治はうまくいっている。 ・ 「悪くなってしまった政治」の共通点は、一部の人のために政治が行われたことである。人々に不満や反発があり、不利益がもたらされたと感じているとき、政治は悪くなってしまっている。 <p>視点②「政治の手段や方法は合理的か」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「うまくいった政治」には国民の意見を反映させる手段があったり、実行までの時間がかからなかったりと、手段や方法が合理的である。 ・ 「悪くなってしまった政治」は国民の意見を反映させる手段がなかったり、実行までに時間がかかったりと、手段や方法に欠点がある。 ・ フランスでは王政への不満から、国王は処刑され多数(少数)の支配に代わった。その後、また上手くいなくなるとナポレオンが登場し、国民投票によって皇帝となった。一人の支配から多数(少数)の支配に変化するとき、革命や血が流れることがある。 ・ ヒトラーは国民による選挙で政権を獲得し、後に法律を変えるなどして一人の支配に近づいていた。多数の支配が一人の支配を生むこともある。

第2次	現代の私たちからみて、最も理想的な政治のしくみはどれだろうか。(本時)	(省略)
-----	-------------------------------------	------

6 本時の学習 (全4 / 4時間)

(1) 指導目標

これまでの学習を踏まえ、歴史から学び、よりよい社会を実現するための政治には何が必要なのかを考察することを通して、現代社会の課題に気付かせ、解決に向けて主体的に追究させる。

【主体的に学習に取り組む態度】

(2) 展開

学習活動と予想される生徒の反応	指導上の留意点
<p>1 前時までの学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間の学習を振り返って、歴史的事象を根拠に理由付けして主張しよう助言する。 ・「理想的な(よい)政治」かどうかについて、前時までの学習から、「①誰のための政治か」、「②手段や方法は合理的か」の視点を踏まえて主張することを確認する。 ・視点①と②は公民的分野で学習する「効率と公正」につながるよう意識して助言する。(ただし名称は出さない。)
<p>2 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">現代の私たちからみて、最も理想的な政治のしくみはどれだろうか。</p> </div>	
<p>3 全体で意見交換する。それぞれの政治のしくみのよい点を中心に説明する。</p> <p>一人の支配</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ローマの五賢帝、ヒトラー、卑弥呼の政治のように、人々からの支持や実力がともなっていれば社会が安定する。ヒトラーが戦争に突き進むようになってしまっただけからはよくなかったが、戦争を始める前までは世界恐慌後のドイツ経済を立て直し、ドイツ国民に豊かさをもたらした。【視点①】 ・フランス革命後の混乱期を収めたのは軍人皇帝ナポレオンだった。一人の指導者が判断した方が決定が早く、迅速に社会の混乱を収めることができる。【視点②】 <p>少数の支配</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近世の日本では、徳川政権による政治によって戦乱のない平和な時代が築かれた。【視点①】 ・一部の實力のある人が協力して政治を行うこ 	<ul style="list-style-type: none"> ・発言者の意見に共感できる点や反論できる点はないか考えながら聴くよう助言する。 ・選んだ生徒が多いであろう多数の支配、少数の支配、一人の支配の順に発表させる。

とで、独裁者が生まれることを防ぐことができる。ローマでも少数の有力者が政治を行うことでそれまでの混乱を収めることができた。【視点②】

多数の支配

- ・戦後の日本は民主化政策の下、主権者は国民とされた。社会を構成するあらゆる立場の人の意見が取り入れられるので、一部の権力者による暴走を止められる。【視点①②】
- ・現代では思想や言論の自由が保障されているので、様々な立場から自由に意見し、話し合いを行うことでよりよい決定を行うことができる。【視点②】

4 小グループで意見交換する。

5 反論がないか、全体で意見交換する。それぞれの政治のしくみの欠点を中心に説明する。

一人の支配

- ・ヨーロッパの絶対王政やヒトラーの政治では、利益を得るものもいれば、迫害を受ける者もいた。【視点①】
- ・少数の意見や為政者とは異なる意見をもつ者の考えが政治に取り入れにくくなる。【視点②】

少数の支配

- ・少数の限られた人の利益のために政治が行われると、社会から反発が起きる。【視点①】
- ・政治の決定権をもつ一部の人が対立すると派閥が生まれてしまう。ローマでも始めは上手くいっていた少数の有力者による政治は争いが起き、続かなかった。【視点②】

多数の支配

- ・多くの市民の中には政治の専門家もいれば、知識のない人もおり、自分自身の利益のために人の意見に流されるなど、誤った判断をしてしまう可能性がある。【視点①】
- ・ソクラテスの裁判やヒトラーを生み出した国民投票をみても、多数決で決定したことは方法としては民主的だったかもしれないが、少数の意見が無視される可能性があるため、必ずしも正しい判断になるとは限らない。【視点②】

- ・反論を考えることを通じて、それぞれの政治のしくみの課題に目を向けさせ、批判的に考察させる。
- ・どの政治のしくみも完璧なものではなく、主権者や制度次第でよい政治にも悪い政治にもなることに気付かせる。

<p>6 これまでの学習を踏まえ、歴史から学び、よりよい社会を実現するための政治には何が必要なのかを考える。</p> <p>政府（国やしくみ）に必要なこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人や集団にとっての利益となる政治を行うこと。【視点①】 ・個人や集団の意見が反映されるしくみがあること。【視点②】 ・間違いを修正できるしくみがあること。【視点②】 <p>国民（個人や集団）に必要なこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人や集団にとっての利益となっているかの判断力があること。【視点①】 ・個人や集団の意見を主体的に伝えようとする。【視点②】 <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・視点①と②を踏まえて考えるよう助言する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>学習評価の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を踏まえ、歴史から学び、よりよい社会を実現するための政治には何が必要なのかを考察することを通して、現代社会の課題に気付かせ、解決に向けて主体的に追究している。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】 (発言・ワークシート記述)</p> </div>
---	--

(3) 授業観察の視点

- ・ 歴史から学び、よりよい社会を実現するための政治には何が必要なのかを考察することを通して、現代社会の課題に気付かせ、解決に向けて主体的に追究させる授業構成として、学習課題、発問、資料提示、意見の取り上げ方などの手立ては適切であったか。また、どのようにすればよかったのか。

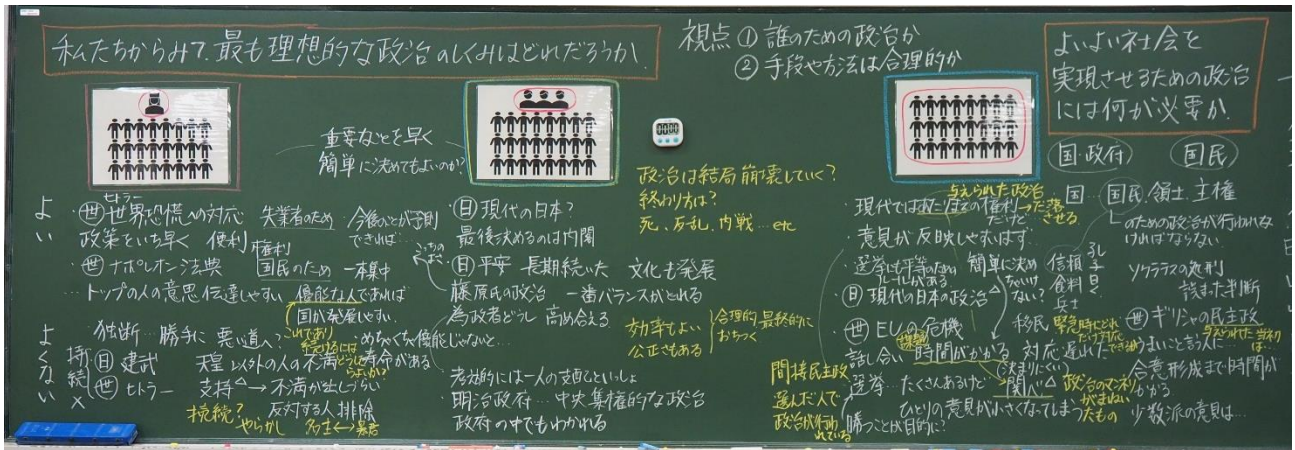
(4) ルーブリック

※事前に生徒にも同様のものを示した。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	複数の歴史的事象を根拠に、理由付けをして主張することができる。	複数の歴史的事象を相互に関連付けて、課題に対して多面的・多角的に考察し、主張することができる。	これまでの学習を踏まえ、歴史から学び、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の課題に気付き、解決に向けて主体的に追究することができる。
B	歴史的事象を根拠に、理由付けをして主張することができる。	歴史的事象を根拠に、課題に対して多面的・多角的に考察し、主張することができる。	これまでの学習を踏まえ、歴史から学び、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の課題に気付くことができる。
C	歴史的事象を根拠に、理由付けをして主張できない。	歴史的事象を根拠に、課題に対して多面的・多角的に考察し、主張できない。	これまでの学習を踏まえ、歴史から学び、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の課題に気付くことができない。

(5) 板書計画

※別のクラスで行ったときのもの



〔主な参考文献〕

【方法論】

- ・ 岡崎誠司『社会科の授業改善 1 見方考え方を成長させる社会科授業の創造』風間書房、2013年
- ・ 森分孝治『社会科授業構成の理論と方法』明治図書出版、1978年
- ・ 森分孝治・片上宗二編『社会科重要用語 300 の基礎知識』明治図書出版、2000年

【内容論】

- ・ アリストテレス『政治学』（牛田徳子 訳）京都大学学術出版会、2001年
- ・ 宇野重規『民主主義とは何か』講談社、2020年

など

- ・ その他、大学の先生からの聞き取り